

神は嵐の中からヨブに答えて言われます。

これは何者か。知識もないのに、言葉を重ねて／神の経綸を暗くするとは。／ 男らしく、腰に帯をせよ。わたしはお前に尋ねる、わたしに答えてみよ。／ わたしが大地を据えたとき／お前はどこにいたのか。知っていたというなら／理解していることを言ってみよ。(ヨブ38:2)



ベヘモットとレビヤタン William Blake

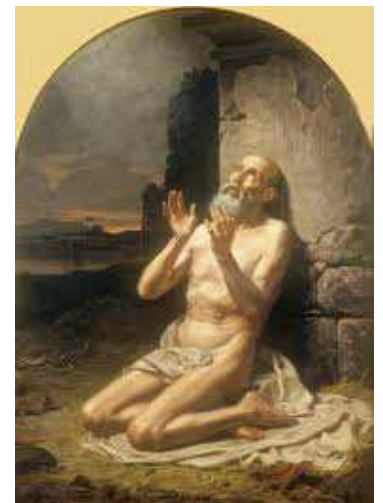
神は広がる大地、深淵の海、光雲の大空を造られ、その運行のすべてを支配し、すべての生き物、草木を養い育てている。人間には不可知ながらも、全知全能の完全な存在であると述べます。証拠となる様々な事例を挙げています。人間の知恵、力で勝てる相手ではない。ヨブ記の記す神は天地の創造主、支配者です。アブラハムに呼びかけ促した神ではなく、人間を超越した自然神として描かれています。

私にとって興味深かったのは、自然の神秘的サイクル、天体の星々、例えば昴、オリオンなどの星座、野生動物の本能など、人間以外のものの営みにまで目を向けている点です。そして、傑作はベヘモット(陸の怪獣)、レビヤタン(海の怪獣)のような人間の力で制御できないと思われる架空の獣まで登場させていることです。このような「こけおどし」のような話が最後に置かれて、主なる神の言葉として記されているのです。これは文学的表現となるのでしょうか。

ヨブは主に答えて言った。あなたは全能であり／御旨の成就を妨げることはできないと悟りました。／「これは何者か。知識もないのに／神の経綸を隠そうとするとは。」そのとおりです。わたしには理解できず、わたしの知識を超えた／驚くべき御業をあげつらっておりました。... しかし今、この目であなたを仰ぎ見ます。／それゆえ、わたしは塵と灰の上に伏し／自分を退け、悔い改めます。(ヨブ 42:1)

神はヨブの問いに、直接的には全く答えていません。ヨブの問いは、過ちがないのに、背く者ではないのに、ヨブに艱難を与えて、罪を追及される神に、神が間違っている、憐れんでほしいと願わずにはいられなかったのです。しかし、神はヨブの艱難に目をとめず、神の不可知性と支配は完全であるという宣言を悟れと結論を与えたのです。神の支配に服さなければ罪となるとヨブは信じたのでしょう。同時に幸福な時も不幸な時も、神はヨブと共におられたという現実をヨブは知ります。神の言葉にヨブは従順に従い、自分の惨めな状況を受容します。

その後、神は友人たちへも怒りを表し、ヨブの信仰に免じ、雄牛と雄羊7頭ずつヨブのもとに引いていき、いけにえとして捧げれば罰を与えないと約束しました。ヨブが友人たちのために祈ったとき、主はヨブを元の境遇に戻し、更に財産を二倍にされた。兄弟姉妹、かつての知人たちがこぞって彼のもとを訪れ、食事を共にし、主が下されたすべての災いについていたわり慰め、それぞれ銀一ケシタと金の環一つを贈った。(ヨブ 42:10)めでたし、めでたしの大団円となります。



ヨブ Gonzalo Carrasco

旧約時代、艱難は罪の裁きを表します。ヨブは苦難の中で神に問いかけ、答えてくださる神と出会い、自分は罪ある人間だと知りました。私たちもヨブと同じように艱難にたじろぎ、受容するのは苦痛です。生まれつきの盲人に言われたイエス様の言葉が私たちに与えられている希望です。

イエスはお答えになった。「本人が罪を犯したからでも、両親が罪を犯したからでもない。神の業がこの人に現れるためである。」(ヨハネ 9:3)